

## 総合工学委員会・機械工学委員会合同 力学基盤工学分科会（第一回）議事録

**日時** 平成 30 年 1 月 22 日（月）

**会場** 日本学術会議 5 階 5-A(2) 会議室

**出席** 菱田公一，吉村忍，荒木稚子，梶島岳夫，河合宗司，岸本喜久雄，北村隆行，塩見淳一郎，高田保之，田中和博，塚田竹美，橋口公一，松尾亜紀子，水野毅，門出政則，矢川元基，山西陽子

**欠席** 但野茂，藤井孝蔵，金子成彦，小机わかえ，渋谷陽二，萩原一郎，松本洋一郎，山崎光悦

### 配布資料

資料 1 分科会設置提案書

資料 2 分科会委員名簿

資料 3 第 23 期の活動のまとめと第 24 期の活動方針について

資料 4 前回（第 23 期 6 回）議事録

資料 5 小委員会設置提案書及び委員候補者名簿

資料 6 理論応用力学シンポジウムプログラム

### 議題

- 1) 第 24 期分科会設置の経緯と趣旨説明
- 2) 分科会の活動について（資料 1）
- 3) 役員の選出（資料 2）
- 4) 第 23 期の活動のまとめと第 24 期の活動方針について（資料 3, 4）
- 5) 小委員会の設置について（資料 5）
- 6) 理論応用力学シンポジウム（3 月 5 日）の準備状況について（資料 6）
- 7) その他

#### 1. 菱田世話人の挨拶（資料 1）

世話人の菱田委員より，分科会の開催挨拶があり，その後分科会設置の趣旨と経緯および分科会の活動等について説明がなされた。

#### 2. 委員の自己紹介

各委員の自己紹介が行われた，

#### 3. 役員の選出（資料 2）

- (1) 第 24 期の委員長に岸本委員，副委員長に高田委員，幹事 2 名に松尾委員と荒木委員を選出した。
- (2) 役員選出後，議事の進行を世話人の菱田委員から岸本委員長に交代した。

#### 4. 第23期の活動のまとめと第24期の活動方針について（資料3,4）

資料3,4に基づき、岸本委員長より第23期の活動内容および第24期での活動方針が説明された。特に、隔年で開催されていた理論応用力学シンポジウムを、毎年開催する方針に変更することについて説明がなされた。

#### 5. 小委員会の設置について（資料5）

- (1) 資料5に基づき、岸本委員長より、力学の深化・展開小委員会の設置申請および委員候補者の提案がなされ、承認された。
  - ・第23期では二つの小委員会（「力学の深化・統合化小委員会」「力学の展開小委員会」）が設置されたが、円滑な議論のため第24期では一つに統合することが説明された。
  - ・活性化を図るため比較的若い委員構成とし、さらに会員・連携会員以外の若い方にも委員として参加してもらいたいという意向が説明された。
- (2) 小委員会の役員は、発足時は本分科会と同一とすることが承認された。
- (3) 小委員会の追加委員については、本分科会・小委員会の委員より推薦を募ることとなった。

#### 6. 理論応用力学シンポジウム（3月5日）の準備状況について（資料6）

- (1) 資料6に基づき、菱田委員より本シンポジウムの経緯・内容・準備状況についての説明があり、開催申請の提案がなされ、承認された。
- (2) 本シンポジウムの内容について、学術への動向へ投稿してはどうか、との提案がなされ、編集委員と相談しながら進めることとなった。
- (3) 理論応用力学シンポジウムの集客について、議論がなされた。
  - ・同日午前から昼にかけて、本分科会と小委員会（準備会）を合同開催し、委員・オブザーバーのシンポジウムへの参加を促すこととなった。
  - ・本シンポジウムの案内掲示（ホームページ）に際し、過去の同シンポジウムの情報を載せることとなった。

#### 7. その他（今期の活動について）

##### (1) IUTAM2024 日本誘致に関して

IUTAM の日本への誘致のための開催テーマについて、本分科会においても、議論や理論応用力学シンポジウムなどを通じて、魅力的なテーマを考えることとなった。

##### (2) 人材リストについて

研究者マップ（どういう人がどのような力学研究を行っているか、という各専門分野での人材リストのようなもの）を作成してはどうか、との提案がなされた。これに対し、以下のような意見があった。

- ・学術大型研究の申請や IUTAM の講演募集などの際に役に立つのでは。
- ・研究・開発においても、人材情報があれば価値があるのでは。
- ・大型研究に申請・挑戦しないような人材の見える化は意味があるのでは。

### (3) 若手育成について

若手育成のため、本分科会においてテーマやトレンドを発信したり、戦略目標を設定するとよいのではないか、という提案があった。それに対し、以下のような意見があった。

- ・若手のモチベーションをあげるための雰囲気作りが重要
- ・若手に大型予算獲得のための指針を示すことが重要
- ・若手のマインドセットが重要で、それにはサロンのような場が役に立つ。

さらに、テーマに関連して、以下のような意見があった。

- ・歴史的な力学の変遷を振り返り、社会とのつながりを意識したテーマ設定が重要
- ・Disaster（の解決）やSDGなどに力学がどのように貢献できるかを示すことが重要
- ・JST フェローや内閣府などと意見交換会をしては。
- ・医学と同様、工学においても、基礎と併せて臨床的な（社会に見える）研究が大事
- ・力学だと地味になりがちだが、課題別テーマは魅力的に見える。

### (4) 次回の開催予定

3月5日（月）11時より分科会と小委員会（準備会）を合同で開催予定